

「情緒とことば」

～靈魂体が守られますように～箴言 18:20～21 マタイ 8:5～13

■ 情緒と言葉 ～靈魂体は守られるように～

今回の聖書箇所マルコの福音書に出てくる 100 人隊長はローマ人でありながらイエス様を心にお迎えする余裕がありました。病にあるしもべの所に「来てください。」とお願いするのはではなく「おことばを下さい。そうすればしもべは直ります。」とイエス様にお願いしました。100 人隊長は何を知っていたのでしょうか？それはことばには力がある！そのことを彼は誰よりも理解していたのです。情緒を安定させるのは言葉です。自分達が発してきた言葉は、自分の中には残っていません。しかしこの言葉は、例え和解をしても人の心の中に生き続けます。特に良い言葉は残りません。良くした事は残らない。自分が発した悪い言葉は、人の心の中で毒麦となります。言葉というものは皆さんの人生影響を与えています。その言葉を制することが出来れば人生は成功と言っても過言ではないかもしれません。しかし私達は中々言葉を制する事が出来ません。そこで、箴言 18 章 20～21 『人はその口の結ぶ実によって腹を満たし、そのくちびるによる収穫に満たされる。死と生は舌に支配される。どちらかを愛して、人はその実を食べる。』私達はもう一度振り返ってみる必要があります。上手くいってない。私はこんな目にあった。だれにも受け入れられない。絶えず人のせいにしていきます。しかし箴言は、はっきり言葉について語っています。自らの言葉で人は心を乱すのだ。そこで私達がしなければならない事は、私達が発した言葉を記録するべきです。もう一つとっても大事な事があります。あなたはどんな言葉を聞いていますか？イスラエルの民は聞いている言葉で影響を受けていました。子どもを立派に育てたいのなら、子どもに悪い言葉が届かないようにしなければいけない。聖書ははっきり言っています。種は言葉だ。そして畑は私達です。クリスチャンである私達は、例え悪い種が蒔かれたとしても良い種にかえることができるのが神様です。知りたい、聞きたいは罪です。自分には必要の無い話や悪い実を結ぶような話は聞かない道を選びましょう。

■ 認識している部分、認識していない部分

あなたが人に出している部分は、上の 5% だけ私達は下の部分の 95% の非常に質の悪い部分があります。その質の悪い部分が認識されていない。人はこの 95% を知るかで変わります。父との関係まずお父さんが、居る理由は、お父さんの嫌な部分を見て自分の嫌な所を知るため、良い部分を見て自分に与えられた神様の使命を見つける。大事な事は、『知る』事、『認める』事です。自分が認識していること、知っていることは、ほんの一部であることを受け取りましょう！

■ 4つの感情を深く探ってみましょう。できるだけたくさん書き出してみよう。

- ①何に怒っていますか？
- ②何が悲しいですか？
- ③何に不安ですか？
- ④何がうれしいですか？

この4つの質問に自分で答えてみましょう。2、3個しか浮かばないのなら、要注意です。なぜかという自分の事を客観的に見てないからです。自分の心の中をみまいとして生きている。そうしないと解決できない問題があるからです。自分の心を見てしまうと自分が自分で立てなくなるからです。結果自分から離れていくのです。聖書はそうあってはならないと書いています。例えば男性が毎日髭を剃るのでしょくか？毎朝自分の姿を鏡を見て、そして自分の姿を整えるために神様は男性に髭を生やしたと思います。自

分を見る事はとっても大事な事です。そしてそれを知らないで 95% の部分が認識出来ません。この 4 つの事を祈る時に振り返ってみてください。そうすると自分が理解出来ます。自分の感情を理解した人が多く人を愛するという統計が出ています。自分を理解してもらおうのを人から理解してもらいたいと人間は思いますが、実は一番理解しなければならないのは、自分自身なのです。中々書けない人や、あまり出てこない人は自分の感情が理解されていないという事です。そのくらい自分を見てこなかった。神様はコンテンプレーション、黙想する時間の中でこれをするようにとされています。これを実行した人物が聖書の中に出て来ます。その方はダビデです。ダビデの詩はたえずこれが出て来ます。最初は怒りから始まりそれについての悲しみや恐れが出て来て最後主が喜ぶ事なんと幸いか言って終わります。ダビデは自分が王として自分の立場に立つために絶えずこの事を繰り返し自分の情緒を取り戻していた。人は自分の心を理解しないとその情緒を安定させることが出来ないのです。

■ 神様に人が人として戻る方法

6つのテーマ

- ①水面下を見る
95% を見る、知る、認める
- ②過去の影響を打ち破る
両親、環境から受けたものが聖書的な物でないという意味がありません。
- ③弱さを抱えたまま生きる
何かに人に伝えるとき、怒りを伝えるのではなく、自分の弱さを子ども達や周りの人に伝えてみましょう。
- ④限界という賜物を受けとる
神様は限界を与えている。神様は選べと言われていません。限界を知ることは大切です。
- ⑤悲しみや喪失を受け止める
悲しいがないから怒りへいくのです。悲しみにちゃんと心を向けましょう。
- ⑥『受肉』に倣って人をさらに深く愛する
人を更に深く愛するにはイエスキリストが十字架に架かって死んでくれた事をもう一度ちゃんと理解しなければなりません。そのためには①～⑤に向き合うことが必要

まとめ

靈魂体が守られる為に 1 テサロニケ 5 章を読みました。「いつも喜び、絶えず祈り、すべてのことに感謝する。」これらのことは全て言葉によって成す事であり、行動は言葉によって結論づけられていきます。祈りも同じです。祈りは神様に捧げると同時に自分に聞かせる事が大切です。自分に聞かせる事によって自分の罪を強く認識する事ができます。その罪意識が私たちを変えて行きます。その為に悲しいを受け取り神様の前にも人にも伝えて行きましょう。感情的に『怒り』(いかり)につなげる事を止めなければいけません。「悲しみ→神様に慰められ赦され→喜ぶ」このプロセスを神様と共に行う事が祝福に繋がります。神様に何を聞きどのような言葉を発するか決断して行きましょう。

(要約者:岡本 英樹)

(2019年1月13日)